

暁 星

第47号
31. 3. 31
発行 高等学校
島根県立平田高等
暁 星 会
印刷
(有)西村印刷

明日に向かって



会長 山下 壯一

今年度の役員改正により、暁星会会長に就任致しました山下でございます。浅学非才の身では有りますが、暁星会会員の皆様の為に、また本校平田高校の益々のご隆盛の為に尽力をいたしたく存じます。

本校も平成二十八年十一月に創立百周年を迎え、記念式典等も成功裡に終了致しました。暁星会会員の皆様方には格別のご支援・ご協力を賜りました事を改めまして衷心より厚くお礼申し上げます。

新しい世紀に向かって出発を致す時に、本校校長に今年度「坂根昌宏」校長先生が就任なさいました。

坂根校長先生は、生徒の皆さんが「地域と協働」出来る学校、「地域に存在感」を得る学校作りの為に、多方面に渡っての実践的教育に取り組んでいらっしゃると思います。暁星会としても求めがあれば出来る限りのご支援・ご協力を致したく思っております。

文武両道の本校は今年度も運動部・

文化部共に県内は元より、中国地区大会・全国大会に於いて素晴らしい活躍をなさいました。数々の栄光に対し、暁星会会員一同母校の「誉れ」と大変に嬉しく思っています。各部活動のご活躍の内容は本紙面「部活動の成績」に詳しくご報告を頂きます。全生徒のほとんどの皆様が、何かの部活・サークル活動に参加なさっている事は立派に学校生活をなさっている事らしい証でも在ると思えます。

私達は母校「平田高等学校」が「不滅の学び舎」であるように会員一丸となつてのご支援・ご協力を致す事を決意致します。

末尾では有りますが、暁星会会員皆様のご健康・ご多幸を心よりご祈念致しましてご挨拶と致します。

地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進



校長 坂根昌宏

校長 坂根昌宏
暁星会会員の皆様には、平素より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、

心より感謝申し上げます。昨年九月には東京平高会、十月には近畿平田会に

お招きいただき、ありがとうございます。関東・関西で組織的に活動していらっしゃる、パワーあふれる卒業生の方々にお会いできたことを、とても嬉しく、心強く思いました。地元におきまして、平田商工会議所と連携して「地域課題解決学習」に取り組んだことから、たくさんの卒業生の方々と関わらせていただきました。卒業生の皆様それぞれに本校のことを気に懸けていただいていることを肌で感じ、とてもありがたいと思いました。卒業生の皆様には、今後とも変わらせず、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、平成三十年度もまもなく終わろうとしております。今年度一年間を振り返り、学校の近況を報告いたします。

平成三十年度は、「地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進」を学校目標として掲げ、様々な教育活動に取り組んでまいりました。

特に、二年生が「総合的な学習の時間」に「地域課題解決学習」に取り組んだことが、新しい動きとして挙げられます。きっかけは、平田商工会議所から創立七十周年の記念事業として、平田高校と一緒に地域の活性化に取り組むたいという提案をいただいたことでした。それを受けて、「平田まつり」や「平田まちあそび」などの地域の行事の企画や運営に関わりました。当日は、一年生や三年生もボランティアとして参加しました。また、地元産の小豆を使ったスイーツを開発し、出雲のイオ

ンモールや東京のほんばし島根館で販売するという活動も行いました。地域の方々は、高校生が地域の活性化に関わることを大変喜んでくださいました。また、生徒たちにとっても、地域の方々と意見交換をしながら一緒に活動した体験は、地域に対する肯定感や貢献意識を高めるとともに、島根が目指す学力である「主体的に課題を見つけ、さまざまな他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力」を身につけることにつながる、貴重な学びの機会となりました。

また、今年度は、部活動においても、地域の方々に喜んでもらえることが多かったように思います。最近では、野球部が昨年の秋の県大会で準優勝し、センプアの二十一世紀杯の候補として、全国の九つの学校の中に選ばれたことが挙げられます。選考の結果、補欠校の第一位で、惜しくも甲子園初出場は逃しましたが、保育園や幼稚園の子どもたちを対象とした野球教室が、地域に貢献する素晴らしい活動であると、高く評価されました。陸上競技部の女子駅伝チームが、八年連続十回目の全国高校駅伝に出場したことや、柔道部の女子が、全国高校選手権大会への出場を決めたことも、地域の明るいニュースとして受け止めてもらっています。また、JRC部の様々なボランティア活動や、吹奏楽部、放送部、美術部などの地域の文化活動への参加などについても、地域の活性化につながるの、これからも続けてほしいという意見をいただいています。

こうした地域と関わる取組をさらに充実させるために、文部科学省が来年度から新たに始める「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」に申請しました。この事業は、高等学校が自治体、高等教育機関、産業界等と協働してコンソーシアムを構築し、地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組を推進することで、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図ることを目的としています。一月に行われた事業説明会には全国からおよそ五百校の参加がありました。募集枠の二十校に入るのはかなりの難関ですが、平田商工会議所、島根県立大学、出雲市などのご協力をいただき、チャレンジすることにしました。本校の企画が採択されるかどうかは三月末から四月初めに決定します。結果はホームページ等を通じてお知らせいたします。

この度、百五十五名の卒業生が、新たに暁星会に入会します。これからは学校の外から母校を支える応援団として、いろいろな面で協力していただきますようお願いいたします。また、暁星会の先輩方と関わる機会を大切にして、人間関係を広げていってほしいと思います。また、先輩の皆様には、新会員を快く受け入れていただきますようお願いいたします。学校にとって、卒業生の方々の存在は非常に大きく、皆様のご理解やご支援がなければ、学校の教育活動は成り立ちません。私は、近い将来、暁星会の総会が開催されることを期待しております。母校への思いを接点として結集し、組織的にご支援

いただくことほど心強いことはありません。教職員一同、平田高校の教育の質を高めることに全力を挙げて取り組んでまいりますので、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



柔道部

主将 藤原 遥果

柔道部は、男子十一人、女子六人、マネージャー二人の計十九人で活動しています。

私たちには部訓があります。それは、「順道制勝」です。この言葉には、正しい道に順って歩み、勝ちを制すという意味が込められています。部活動の中だけでなく、私生活など普段から正しい行いをし、周りの方々に応援されるような選手を目指し、日々精進しています。

私たち柔道部の目標は、日本一になることです。そのために、毎日厳しい練習に取り組んでいます。他の学校に比べると、練習時間はそれほど多くないかもしれませんが一人がチャ



練習時間はそれほど多くないかもしれませんが一人がチャ

ンピオンになるという高い意識を持ちながら、質の高い練習をするようにしています。また、キャプテン、副キャプテンを中心に、声を出して練習を盛り上げ、しんどいことも乗り越えています。

私たちは、三月に日本武道館で行われる全国高校選手権に出場します。惜しくも、男女そろっての出場は叶いませんでしたが、女子団体は三年ぶりに出場を果たすことができました。体格的には小柄ですが、それに負けない強い気持ちを持って挑みたいと思います。

この大会に出場できるのは、いつも指導してくださる顧問の先生をはじめ、家族、仲間の支えがあったからこそだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。応援して下さい。自分達の力を発揮し、悔いの残らないよう頑張ります。引き続き、応援よろしく願います。

陸上部

「支えていただいて」

主将 田中 愛樹

平田高校での三年間を振り返ると、部活動での思い出が大半です。こんなに充実した部活動ができたのは、たくさんの方々を支えていただいたおかげだと思っています。

私は中学生の時、駅伝で初めて全国大会に出場し、高校でも全国大会に出場できるような選手になりたいと思います。平田高校に入学しました。三年間全国



大会に出場しましたが、島根県で勝てばいいというような甘い考えでは通用しない、全国レベルの壁を感じました。そして、出場するだけでなく、全国で戦える選手になりたいと思うようになりました。

しかし、練習するうえで、伸び悩む時期もありました。私は、三年生の夏に一番悩みました。キャプテンであるのに、結果が出せず、自分のことに一杯になってしまい、チームをまとめることができなりました。そんな時でも、結果が出せない私を見捨てることなく、熱心に指導してくださったコーチ、自分たちで考えて行動し、私の代わりにチームをまとめてくれた下級生、どんな小さな大会にも応援に来て声援を送ってくれた両親や、知り合いの方など、本当にたくさんの方に支えていただき、乗り越えることができました。県総体が終わり、三年生が自分一人だけになった時、「もうやるしかないな」と覚悟が決まり、それからチームのために走れるようになりました。そうなたれたのは、自分が悩んでいた時、たくさんの方々、支えてくださったからだと思います。また、部活動に集中できるように進路指導や、受験対策等、尽力していただいた先生方のお

かげだと思っけています。

最後の県伝は、全国大会でリベンジをしたという気持ちと、今まで先輩方が築いてきてくださった、県伝連覇の伝統を途切らしたくないという気持ちで走りました。また、下級生を全国大会に連れて行って、もつと自分たちの目線を上げてほしいという気持ちもありました。全国大会では、今までの練習をすべて発揮することはできず、悔しい結果となりました。しかし、この三年間の高校生活を部活動に費やしたことに悔いは残っていません。この先も勉強と陸上とを両立させ、走り続けようと思っています。そして、支えてくださる方々に、笑顔を届けたいです。そう思えたのは、この三年間を通して、たくさんの人に支えていただいて走り続けられたことを実感したからです。この三年間で感じた「人のあたたかさ」を大切にしてこれからも目標に向かって走り続けていきたいと思っています。

野球部

主将 植田 航

平成三十一年一月二十五日午後三時二〇分、私たち平田高校野球部の全メンバーは、グラウンドに整列していた。



そこで校長先生から第九十一回選抜高校野球大会二十一世紀杯の選

考漏れの報告を受けた。

私たちは、新チーム結成時のミーティングで「秋季中国大会二勝」と「甲子園で皆さんと校歌を歌う」という目標を決めて始動した。その後、目標達成に向けて、基本の反復・徹底と共に、自分たちの武器になるものを編み出し、それを磨いていった。それが「走打連携」「攻めの守備」「不敗の継投」である。秋季県大会では、チーム全員が自チームの戦い方を徹底して一体となつて相手チームに向かっていき、自分たちの力以上のものを発揮する試合ができた。そして、準優勝という結果を残し、目標である秋季中国大会への出場権を獲得した。しかし、中国大会では他県の強豪チームに対し、自分たちの戦い方ができずに大差で敗退してしまった。当然、力の差も感じたが、敗因は明らかに自チームにあり、多くの課題を見つけたことができた意義深い大会となった。

そして、この敗戦以降は、選抜高校野球大会で校歌を歌うため、課題を一つずつクリアしていきチーム力を向上させていった。その間、二十一世紀杯島根県推薦校・中国地区推薦校に選出され、緊張感のある貴重な経験のできる三ヶ月を過ごすこととなった。また、自チームの強化以外にも、地域での野球の普及を目指し、平田地域を中心とした子ども野球教室を実施し、野球の楽しさを子どもたちに伝える活動もしていった。

この間、多くの方々に応援していただいたり、お世話になり、改めて野球ができることへの感謝の気持ちを噛みしめることができた。

JRCC部

部長 名原 朋花

今回の春の甲子園には縁がなかったが、夏の甲子園はすぐにやってくる。これから私たちは「甲子園で皆さんと校歌を歌う」という目標をこの夏達成するために平田高校独自の野球に磨きを掛けていきたい。

私たちは、一人でも多くの人が自分の命を守るようになってほしいと願い、「災害から身を守る知恵とワザ」を、私たちが考えて企画するオリジナルの『体験型』で防災啓発しています。地域の皆さんの好評を得、たくさん声をかけてもらえるようになりました。県内はもちろん、全国でも先進的な取り組みだそうで、全国にあつてほしいボランティアとして今年度は第三位に認められました。

全国ボランティアアワードでは、各都道府県代表九十校が、学校ごとのテーマでブース設営し、一般来場者約二万人に情報発信と交流の輪を広げました。本校は、例えば新聞紙スリッパがいかに足を守るために大事なかを、ガレキを見立てたトゲの上を歩き比べて『体験』してもらおう等しました。危機感を抱く『体験』は「実際の防災行動につながって」いきます。とても好評で「災害を身近に考えるきっかけになった」「防災グッズの大切さがわかった」「さっそく家族で対策するよ」など様々な声をいただき、伝わったんだな、実際の行動に繋がったんだなと実感しま

した。今後の活動のヒントも得ることができました。

さだまさしさんの「ボランティアは一人で出来るものじゃない。相手がいって、仲間がいって、心を通わせるから『ありがとう』になるんだよ。」に心動かされました。普段は部員だけでボランティア活動と感じがちでしたが、本当はこんなに多くの仲間と、応援してくださる方々がいるのだと、心強くなりました。

せっかくできた全国のボランティア仲間との交流の輪は、いざという時にこそ連携できるよう、まめに情報交換・交流を続けようと思います。とても貴重な機会を頂きました。

日頃は、命を救うために必要な資格取得や、募金活動、地域の乳幼児から高齢者の方々まで交流を兼ねた災害時啓発など、自分たちでいろんなアイデアを出して企画し、仲良く楽しく協力しあつて活動しています。もつとボランティア仲間が増えよううれしいです。



平成30年度 部活動の成績

全国大会

●柔道部

全国高校総体
 男子66kg級 白菊湧大
 男子73kg級 佐々木優大
 女子57kg級 藤原遥果
 全日本ジュニア柔道体重別選手権
 男子73kg級 佐々木優大 ベスト8
 全国高校柔道選手権(平成31年3月出場予定)

女子団体
 女子52kg級 熱田晴香
 女子57kg級 藤原遥果

●陸上部

女子全国高校駅伝 出場

●水泳

全国高校総体
 自由形50M・自由形100M 常松武朗
 国民体育大会
 自由形50M・自由形100M 常松武朗

●空手道

全国高校総体
 女子個人組手・個人形 金月瑠華

●JRC部

全国高校生ボランティアアワード 2018
 『来場者2万人投票 第3位』
 『審査員特別表彰 第6位』
 全国ボランティアスピリット
 『ボランティアスピリット賞』
 全国 高文連青少年赤十字部門
 研究発表 島根県代表

●放送部

NHK全国高校放送コンテスト
 〈ラジオドキュメント部門〉
 『学校から地域へ』 準々決勝進出
 全国高校総合文化祭 放送部門
 〈アナウンス部門〉 川島悠夏
 〈ビデオメッセージ部門〉
 『笑顔を作る人生ゲーム』
 ブロック内4位
 第5回全国高校ビブリオバトル決勝大会
 郷原拓実

県大会等

○県総体

●柔道部

男子団体 準優勝
 女子団体 準優勝
 個人優勝 男子66kg級 白菊湧大
 男子73kg級 佐々木優大
 女子57kg級 藤原遥果

●陸上競技部

男子1500m 山岡竜也 6位
 男子400mH 玉木浩平 6位
 女子3000m 野津きなり 2位
 女子3000m 田中愛樹 4位
 女子走高跳 飯塚香穂 5位
 女子走幅跳 木村日薫 6位

●卓球部

(男子団体) 一回戦 平田3-1 浜田
 二回戦 平田0-3 明誠
 (女子団体) 二回戦 平田3-0 浜田

準々決 平田3-0 松江商業
 準決勝 平田1-3 松徳学院
 (第3位)

●剣道部

(男子団体) 二回戦 平田3-1 出雲西
 準々決 平田1-1 出雲
 (本数負け)

●女子バレーボール部

一回戦 平田2-0 隠岐
 二回戦 平田1-2 松江農林

●男子バスケットボール部

一回戦 平田49-108松江工業

●女子バスケットボール部

一回戦 平田81-50出雲農林
 二回戦 平田50-64益田翔陽

●女子ソフトテニス部

一回戦 平田3-0 津和野
 二回戦 平田0-3 松江西

●男子テニス部

二回戦 平田0-3 益田

●サッカー部

一回戦 平田2-0 浜田商・江津
 二回戦 平田1-0 松江農林
 準々決 平田0-2 石見智翠館

●水泳

自由形100M 優勝 常松武朗
 平泳ぎ100M 優勝 岡 鈴菜
 平泳ぎ200M 優勝 岡 鈴菜

●空手道

女子個人組手 優勝 金月瑠華
 女子個人形 準優勝 金月瑠華

●野球部

○全国高校野球選手権島根大会
 二回戦 平田0-11開星
 ○島根県高校秋季野球大会
 二回戦 平田3-1 江津
 三回戦 平田3-2 出雲工業
 準々決 平田3-2 浜田
 準決勝 平田2-0 矢上
 決勝 平田7-8 大社 (準優勝)
 中国大会出場。

○中国地区高校秋季野球大会
 一回戦 平田5-12崇徳
 上記の活躍等により、平田高校野球部は、21世紀枠中国地区候補校に選出され、第91回選抜高校野球大会の補欠校となる。



○全国高校柔道選手権島根県予選
 女子団体 優勝
 男子団体 準優勝
 個人優勝 52kg級 熱田晴香
 57kg級 藤原遥果

○全国高校駅伝島根県予選
 女子 優勝

●吹奏楽部

○全日本吹奏楽コンクール島根県大会
 高校Aの部 銀賞

●放送部

○NHK放送コンテスト島根県大会
 〈ラジオドキュメント部門〉 優秀賞
 (全国大会出場)
 〈アナウンス部門〉 決勝進出

●ESS部

○第51回ヘルンをたたえる青少年スピーチコンテスト出場

●JRC部

○『救急員』資格取得
 ○『健康生活支援員』資格取得
 ○『赤十字ベーシックライフサポーター』認定
 ○『あいサポーター(障がい者サポーター)』認定

●美術部

○県高校美術展 入選

●文芸図書部

○県文芸コンクール
 〈俳句部門〉 原千紗貴 優秀作1位
 (全国高総文祭出場予定)
 〈小説部門〉 村田美咲 優秀作1位
 (全国高総文祭出場予定)

○第3回俳句甲子園 中国大会出場 2位

●写真部

○島根県高校写真展 入選

●書道部

○島根県高校書道展 奨励賞

○全国高校ビブリオバトル2018島根県予選大会 郷原拓実 優勝

○読書感想文島根県コンクール 佳作

○読書感想画島根県コンクール 優良賞

進路の状況

進路概況(延べ数)

卒業年度	H28年度		H29年度		H30年度		
	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	現役生	過年度卒	
合格先	国立大	11	1	7	8	20	5
	公立大	19		31		26	2
	私立大	58	2	67	3	45	5
	国公立短大	4	1	5		5	
	私立短大	11		1		10	
	文科省所管外の短期大校	1				7	
	看護学校	1		3		9	
	その他の専門学校	26		21		11	
	大学校等						
	計	131	4	135	11	133	12
就職者数	企業	7		7		4	
	公務員	2		3		4	2
	計	9		10		4	6
未定	16		12		16		
卒業者数	156	4	157	15	155	12	